

Aquaprime ヒューミディファイアーHT

再使用禁止

HGF0010

【警告】

- 患者の移動のためストレッチャーや車椅子等を使用する場合はボトルが地面に対して垂直となるように、酸素ボンベ用流量計をセットすること。[アダプタが衝撃により破損するおそれがある。]
- 流量計を接続した後は、アダプタに過剰な負担がかかるような操作を避けること。[アダプタが破損するおそれがある。]

【禁忌・禁止】

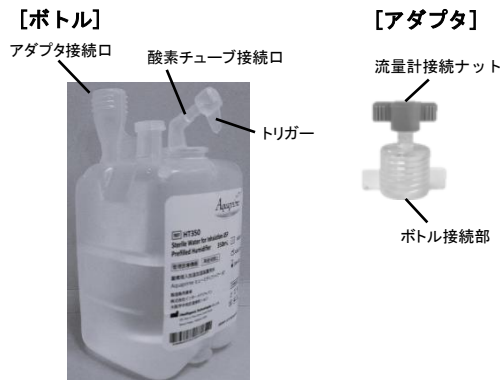
- 再使用禁止
- 精製水等の再注入禁止[設計外の使用であり、無菌性が保証されない。]

【形状・構造及び原理等】

1. 形状

本品は、精製水を容器に充填し湿熱滅菌したボトルと、流量計に接続するためのアダプタで構成される。充填量は350mL、500mLの2種類がある。

<各部の名称>



2. 原理

精製水を充填した容器の底部から吸気ガスを噴出させ、精製水をバブリングすることによって加湿する。

【使用目的又は効果】

本品は、患者に供給する吸気ガスを加湿するために用いる。

【使用方法等】

- ボトルのアダプタ接続口に、アダプタを取りつける。流量計を接続する前にアダプタが確実に接続されていることを確認する。
- トリガーに正面から指をかけ、手前の方へ半円を描くように引き上げてボトルからトリガーを折り取る(ねじり取らないこと)。
- アダプタに流量計を接続する。酸素流量を4LPMに調整した後、ボトルの酸素チューブ接続口を通じて酸素が流れていることを確認する。
- 使用前に警告機能(アラーム)を確認する。4LPMの酸素流量において酸素チューブ接続口を閉鎖し、警告音(アラーム)が鳴ることを確認する。これらは内圧がおおよそ65kPaになったときに作動する。
- ボトルの酸素チューブ接続口に酸素チューブを接続する。
- 酸素流量を適切な流量に調節する。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- 流量計を接続する際は、締めすぎないこと。[アダプタが破損するおそれがある。]
- 流量計は、患者側接続部が酸素用DISSコネクタのおねじ側コネクタに適合するものを使用すること。[アダプタが接続できない。]

- 流量計を酸素供給ラインに接続する際は、流量設定がゼロになっているか、又は酸素ボンベのバルブが閉じられていることを確認すること。[酸素が急激に流入しボトルを破損するおそれがある。]
- トリガーを折り取る際は、必ず手前上方に引き上げるようにすること。[回してねじ切ると、開口部がつぶれ、あるいは閉塞して酸素が供給できなくなる。]
- 酸素療法を開始する前に、すべての接続部が確実に接続され、吸気ガスの漏れがないことを確認すること。
- 多量の酸素を供給すると、加湿能力が維持できないおそれがある。また、圧力の上昇によりボトルが破損するおそれがある。
- 多量の酸素を供給すると、水の粒子が直接患者側に流れ込むことがあるので注意すること。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- 容器を加熱又は冷凍しないこと。[容器を損傷し、漏れの原因となる。]
- 酸素療法中にアダプタの警告音(アラーム)が発せられた場合は、直ちに使用を停止し、原因を調査して適切な措置を講ずること。
- 気管内チューブ又は気管切開チューブを使用している患者に使用する場合、加湿不足になるおそれがあるので注意すること。
- ミニネブライザーを接続した場合、バックプレッシャーにより、アラームが鳴ることがある。ネブライザーを併用する場合は、恒圧式酸素流量計を使用すること。
- ベンチュリーマスクを接続した場合、バックプレッシャーにより、十分な酸素供給が行えないことがある(ボトルが加圧され、アダプタの開放弁が作動することにより、患者への酸素流量が変化する)。警告音(アラーム)が鳴ったり、流量が変化した場合は、ベンチュリーマスクとの併用を避けること。

【保管方法及び有効期間等】

<保管の条件>

- 水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避け室温で保存すること。

<有効期間>

- ラベルの使用期限を参照[自己認証による]。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

■製造販売業者

株式会社インターメドジャパン
大阪市中央区道修町1-6-7 TEL:06-6222-1951

■外国製造業者

ヘルスジェニックテクノロジー社
(Healthgenic Technologies Co., Ltd.)
タイ

—製造販売元—